

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

災害支援 臨時号

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同理事会
■編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

グリーンコープが 支援活動を行った災害

- 1995年1月 阪神・淡路大震災
- 2004年10月 新潟県中越地震
- 2007年7月 新潟県中越沖地震
- 2011年3月 東日本大震災
- 2012年7月 九州北部豪雨災害
- 2014年8月 広島土砂災害
- 2015年9月 関東・東北豪雨
- 2016年4月 熊本地震
- 2016年10月 鳥取県中部地震
- 2017年7月 九州北部豪雨災害
- 2017年9月 台風18号災害
- 2018年7月 西日本豪雨水害
- 2019年8月 2019年8月九州北部大雨災害
- 2019年10月 台風19号災害

組合員から寄せられるカンパが大きな力に 災害支援を超えて 共に生きる 地域をつくっていく

近年、地球温暖化などに伴う気候変動の影響を受け、日本各地で大規模災害が頻発しています。グリーンコープは、「生命が何より大事」という思いから、大規模な災害に遭った被災地を継続して支援してきました。災害が発生した時、まずは被災地に駆けつけ、何を求められているかを知り、グリーンコープみんなの知恵を集め、自分たちにできることを考えて支援活動を行っています。そこにはこれまでグリーンコープが取り組んできた食べもの運動や地域福祉の取り組みなど、様々な経験が活かされています。支援活動は、組合員から寄せられるカンパ金が大きな支えとなっています。

出会いや、つながりを通して 広がっていった支援活動

グリーンコープが初めて災害支援に取り組んだのは、1995年に起きた阪神・淡路大震災でした。「自分たちも力になりたい」と、組合員や取引先からは多くの支援物資やカンパ金が届けられ、被災地に支援物資を運び、現地の生協に職員を派遣するなどの人の支援も行いました。

2011年に発生した東日本大震災では、道路が寸断されて被災地の様子が全く分からない中、グリーンコープのトラックを現地で走らせ、状況を把握することから始めました。組合員をはじめ多くの方からカンパ金や支援物資の提供があり、取引先に支援物資の手配や運搬のために奔走いただいたことで、いち早く支援に取り組むことができました。被災地を訪れた組合員は、被害の甚大さに「心が押し潰されそう」になりながらも、「被災した皆さんの痛みを決して忘れてはならない」との思いで、自分たちにできることを探しました。支援をきっかけに出会いやつながりが生まれ、思いを同じくする人たちの連帯を通して、現地での支援活動は大きく広がってきました。

災害が起きたことで 見えてきた地域の問題

生命を守るための緊急支援が一段落し、被災された方々が避難所から仮設住宅へと移り始めると、地域のつながりが断たれてしまい、高齢の方が孤立するなどの課題が顕著になってきました。それは、私たちの身近な地域でも起こりうる問題でもあります。

グリーンコープの組合員やワーカー、職員は、支援活動を通して出会った一人ひとりと信頼関係を築いていきました。その中で、その人が本当に必要な支援はどんなことかが見えてきました。被災した一人ひとりに寄り添い見守っていく伴走型の支援は、熊本地震や九州北部豪雨災害など、その後のグリーンコープの被災地支援のモデルとなりました。

組合員のネットワークや 主体性を活かして

2016年に発生した熊本地震では、組合員は自ら被災しながらも、避難所のようなすや避難している方々が何を必要としているのかなどの情報をグリーンコープに届けました。毎日の炊き出し

災害支援を通して得た 学びや気づき

組合員は、災害支援活動をする中で出会った人々と一緒に活動することを通し、多くの学びや気づきを得ています。人と人のつながりが被災地の力になっていることを目の当たりにし、共助の大切さを改めて実感しています。災害支援活動で学んだことは、私たちの日常の活動にも活かされ、自分たちの身近な地域にある様々な問題を解決するきっかけとなっています。



緊急支援から地域コミュニティづくりへ

支援のようすを、携わった組合員やワーカーの声を交えて紹介します

いのち 生命を守る

被災時、グリーンコープは何よりもまず被災地に駆けつけています。食料や物資を被災地に届け、炊き出しを行うなど、生命を守るために必要な支援を最優先に取り組みます。



2011年3月 東日本大震災
被災直後の混乱の中、生命を守る拠点となったグリーンコープのお店

くまもとのお店は、地震の揺れで店内が大きな被害を受けたにもかかわらず、被災直後からお店を開け、食料や水、トイレの提供など、困っている方々に寄り添い続けました。平成さくら通り店店長の織田靖子さんに話を聞きました。

最初の地震は、ワーカーがそれぞれ帰途についた頃でした。道路が揺れしやがみ込んでしまっただけの恐怖でした。自宅は家具が倒れ何から手を付けたらいいかわからない状況でしたが、「お店がどうなっているか心配。とにかく行かなくては」

と、翌日、お店に向かいました。店内では醤油などのビン類が割れて散乱していました。本震ではさらに被害が広がり、掃除に追われました。断水はしましたが幸い電気は止まらなかったのが、お店の外の井戸水を使うことができませんでした。近くの公園には家に帰れず車で避難してきた方がいて、水をもらいに来られ、助かること喜ばれました。あれほど何か給菜が作れないかとみんなで知恵を出し合い、冷凍コロッケやさつま芋を揚げたり、ポテトサラダなどを作って販売しました。後日組合員さんが「あの時のポテトサラダの味が忘れられない」と言ってくださり、嬉しかったです。

生命を預かる プロとしての使命感 福祉ワーカーズによる支援と人材育成



2011年3月 東日本大震災
施設職員の減少や入所者の増加で大変な状況の中、支援に入りました

福祉ワーカーズ・コレクティブ連合会は「被災地の役に立ちたい」と、2011年5月に被災後間もない現地に調査のため先遣隊を送り出しました。社会福祉法人グリーンコープ専務理事の後藤美穂さんに当時のようすを聞きました。

現地のケアマネジャーと出会い、主に宮城県山元町、角田市、亘理町の福祉施設で支援を行いました。送り出してくれる仲間協力のもと、2012年6月までの約1年間、

延べ101人の福祉ワーカーが組合員のカンパ金で借りたことのできた現地のアパートに滞在し、支援に入りました。ワーカーは、被災された施設職員の皆さんが少しでも楽になるように、常に後方支援に努め、シーツ交換、車いすの点検や清掃、洗濯などを行いました。

2012年8月からは、不足する人材を育てるための取り組みを始めました。宮城県の認可を得て、共生地域創造財団と福祉ワーカーズコレクティブ連合会が「2級ホームヘルパー養成研修宮城講座」を開催し、通信、実技の講師や事務局を担いました。福祉ワーカーズが日頃の業務で培ってきた、必要とされるものを生み出していくという使命感、フットワークの良さを、支援活動に活かすことができました。

※グリーンコープ・ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連携して、共生地域の創造を目指し、被災地の復興支援を行っている団体

寄り添う

被災地では避難所から仮設住宅への転居がすすむにつれて、みなし仮設住宅の入居者が在宅被災者には公的な支援が届きにくいなど、支援の格差が深刻化してきます。組合員は支援の手が届きにくい方々に寄り添うことが必要だと考え、見守り支援などに取り組みます。また、被災された方々の居場所や生きがいづくりのために、サロンやカフェの開催を始めました。

出会った縁を大切に、見守っていく

グリーンコープ生協ふくおかでは、九州北部豪雨災害で被災された方のお宅に、組合員が継続して訪問しています。南地域理事長の砥上叔子さんと久留米支部委員長の川口愛さんに話を聞きました。



2011年3月 東日本大震災
被災直後の混乱の中、生命を守る拠点となったグリーンコープのお店

被災から3年近く経ち、豪雨で川の水があふれ道が寸断された地域も護岸工事がすすんでいます。一見復興しているように見えますが、まだ自宅に戻れない住民の方も多く、先に戻られた方の中に

は、近所の方がまだ戻られていないので寂しいと、私たちが訪問するのを楽しみにされる方もいます。お茶やお菓子準備して待っていてくださることもあります。

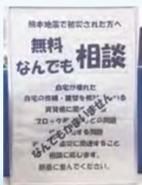
同じ組合員が同じ方を継続して訪問することで、少しずつ親しくなり、心を聞いてもらえるようになります。訪問する時は、組合員が選んだ、季節のグリーンコープ商品を持参しています。昨年末には、お餅やしめ縄などを届けました。笑顔が少なく不安を口にされていた方も、目を追うごとに元気を取り戻し、楽しみを見つけて外出されるようになりました。災害が起きて、「真っ先に駆け付けてくれたのはグリーンコープ。今も支援を続けてくれているのもグリーンコープ」と言われます。出会ったご縁を、これからも大切にしたいと思っています。

見守り支援を続ける中で、被災された方の心が再び元気になるには、人と人とのつながりが欠かせないと実感しています。支援する支援されるという関係ではなく、元氣や力をもらい合える関係をと、これからも続けていきたいと思っています。

2016年4月 熊本地震

熊本地震発災3日後から生活再生相談室を再開しました。他県の相談員も駆けつけたことで、熊本県からの要請を受け、県内でも被害の大きかった8町村での家計相談を行うことができました。

「グリーンコープです」と名乗ると、初めて相談を受ける方も、「グリーンコープさん、ありがとうございます」とおっしゃってスムーズに話が進みました。地震直後から地域の中で炊き出しなどの支援を続けていたからこそ信頼していただけたのだと思います。「グリーンコープの一員でよかったと実感しました。グリーンコープの各県の相談員が総力をあけて支援活動を行ったことが評価され、2016年11月には、熊本県より感謝状をいただきました。



- ・生活応援セットの配布 ・自宅再建の支援
- ・サロンやカフェの開催 ・地域のイベントや祭りの支援
- ・衣類展示販売
- ・見守り支援
- ・片付け
- ・移動販売車による買い物やコミュニケーションづくり
- ・物や見守り支援



2018年7月 西日本豪雨水害
「休んでいけませんか?」けんきくん号へ買い物に来られた方に組合員が声をかけます

被災された方々を元気に 買い物支援で

グリーンコープ生協ひろしまは、水害で大きな被害を受けた地域に移動販売車(けんきくん号)を走らせ、買い物に來られる方々がおしゃべりを楽しめる場をつくりました。理事長の熊野千恵美さんに話を聞きました。

熊本地震での支援のようすを聞いていたので、買い物支援だけでなく、被災された方々の心のケアも大切にしたいと、來られた方の声に静かに耳を傾けて寄り添うことを心がけました。被災された方の気持ちに分かるからこそ何とかが力になりたいと、被災地域の組合員が率先して声をかけて続けています。買い物しながら、「近所同士で元氣そうで良かった」と互いに声をかけ合うコミュニティの場にもなっています。

住宅は家賃が発生します。家計相談によって家計の見直しをすることで、自分の家のお金の流れを見直していただくことができました。

地域再生へ

被災された方々は、自宅に戻ってからも、それぞれ生きづらさや不安を抱えて暮らしています。グリーンコープは、仮設住宅がなくなったから支援が終わりではなく、一人ひとりが安心して暮らせるようになるまで、被災地に寄り添い支援を続けていきます。

- ・引越し支援
- ・見守り支援 サロンやカフェの開催の継続
- ・移動販売車による買い物とコミュニケーションづくりや見守り支援の継続

誰もが住みやすい地域へ

地域の皆さん自らが中心となって地域の再生に向かうため、支援の形を変えていきました。

2016年4月 熊本地震

グリーンコープ生協くまもと

「被災された方々がほっとできる場所づくりをしたい」。組合員はコミュニティづくりを学ぶため、東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市を訪ねました。誰もが訪れ多世代が交流できる場が地域の支えになっていることを知り、熊本にもつくりたいと始めたのが「つながるカフェ」です。ものづくりを通して交流を図るサロン活動も始めました。仮設住宅に住んでいる方からは「このサロンがなかったら、1日中誰とも話す機会がない。来てよかった」という声もいただきました。被災された方々に元気になるよう、サロンやカフェ、地域食堂のサポートなどの活動を継続していきます。



サロンやカフェの活動では、多世代交流が生まれています



地域の皆さんによって運営されている東熊田食堂で、食材の提供や調理のお手伝いをしています

2017年7月 九州北部豪雨災害



グリーンコープ生協ふくおか

新たな取り組みとして、朝倉市で支援活動を行う団体や人たちが交流できる場をつくりました。支援者同士のつながりが広がっていくことで、より豊かな活動を行うことができます。今後も思いを同じくする団体などと協力しながら、地域の方々に寄り添っていきます。

2018年7月 西日本豪雨水害



「おひさま広場」の開所式のようす

グリーンコープ生協おかやま

倉敷市と総社市で地域住民の方が開くサロンの支援を続けています。2020年2月には、倉敷市真備町に、住民の皆さんがつどえる場「おひさま広場」を開所。支援を通して出会った地元団体を含め4団体と一緒に運営していきます。

メーカーや生産者を支えていく

2019年10月 台風19号災害

組合員から寄せられたカンパ金をお届けしました

グリーンコープがごしま生協 理事長 下本地 紀子さん

長野県の千曲川が決壊し、家屋やりんご園、倉庫や農機具などすべてが浸水してしまいました。本来なら出荷のための収穫なのに、破棄するためのりんごを落とす作業は、1年かけて大切に育ててきた生産者にとっては断腸の思いだと感じました。私たちも、作業のお手伝いをしましたが、みんな無口になり静かな中にりんごが地面に落ちる音だけが響いて、ますます寂しい気持ちになりました。生産者の方々が日常生活を立て直せるのは、まだまだ先だと感じました。それでも皆さん必死に前を向き、「絶対に美味しいりんごを届ける」と言ってくださいました。私たちも、みんなで買い支え応援していきたいと思いました。



「感謝の思いいっぱいです」と生産者の皆さん

産直りんご生産者からのメッセージ

グリーンコープの組合員や職員、グリーンコープ青果生産者の会の皆さんが、いち早く長野まで駆けつけてくださり驚きました。重機を使ったりりんご畑の土砂のかき出しや炊き出しなど、たくさんのご支援をいただきました。グリーンコープは、人と人との共生や地域づくりなどを理念に持つ生協だと知ってはいましたが、今回のことで実感することができました。グリーンコープとのつながりによって、生産者同士の支え合いの輪も広がっています。時間がかかるかもしれませんが、りんご栽培の復興に努力していきます。

人から人へ

一度つながった絆は強く結ばれ、互いを思い合います。関係が続いていきます。支え合いの輪が広がり、助け合いの社会へとつながっています。



宮城県女川町高白浜の「果樹園カフェゆめハウス」津波で唯一残った八木さんの実家の倉庫を改装、地域コミュニティの拠点となっている。

組合員から寄せられるカンパ金が支援活動を支えています



一人ひとりの小さな力を集めて大きな支援に

グリーンコープ共同体
代表理事 熊野 千恵美さん

2019年の台風19号で被災された産直りんご生産者に被災直後にお会いした時、ある生産者の方から「どうしてそんなに応援してくれるのですか」と尋ねられ、とっさに「あなたを応援したいからです」と答えました。生産者と消費者という関係を越えて、人と人とのつながりを大事にしたいという思いから出た言葉でした。

カンパや物資の協力を呼びかけるたびに、本当にたくさんの組合員からご協力いただきます。「困ったときはお互いさま。元気な人ができることをすることで助け合おう」と多くの方に共感していただいているのだと思います。

災害が起きた時、グリーンコープは組織力を発揮して必要な物資を必要とところへ届けることができます。でも人はモノで満たされるだけでは元気になることを、被災地で様々な出会いを重ねる中で実感してきました。グリーンコープにどう私たちには、できる支援がたくさんあります。そして何より、多くの組合員がカンパという形で、支援活動を後押ししてください。

グリーンコープの様々な人たちが思いを一つにすることができているからこそ、末長く支援活動を続けることができます。

出会った人、寄り添ってきた一人ひとりに笑顔が戻るまで支援を続けていきたいと思えます。これからもカンパへのご協力をお願いいたします。

これまでのカンパ金の主な使途

支援物資等の費用

- 被災された方々へ届けた食料品
- 炊き出し等にかかわる食材関連
- 水や食料品、タオルなどを箱詰めした生活応援セット
- 餅つきなど季節のイベント開催時の食材関連
- 購入して届けた生活雑貨や冷蔵庫等の家電品

現地費用

- 物資の輸配送、組合員からの支援物資の仕分け保管などにかかった費用
- 倉庫、車両、重機などの費用、現地スタッフ費用、派遣ボランティアなどの交通費など

その他 緊急車両の横断幕作成など

熊本地震支援募金	002	一口 200円	003	一口 500円
九州北部豪雨災害支援募金	004	一口 200円	005	一口 500円
西日本豪雨水害支援募金	006	一口 200円	007	一口 500円
2019九州北部大雨災害支援募金	008	一口 200円	009	一口 500円
台風19号災害支援募金	010	一口 200円	011	一口 500円

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数を記入してください。
 ※【例】申込番号002の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

これまで9年間の活動を振り返ると、支援する側もされる側も共に楽しもうと思いついてやってきたように思います。常に、誰のために、何のために、どうしたら喜



一般社団法人
コミュニティスペース
うみねこ
代表 八木 純子さん

宮城県にある一般社団法人コミュニティスペースうみねこ代表の八木純子さん、東日本大震災で被害を受けた地元女川町の地域活性化に向け、様々な活動を行っています。熊本地震や九州北部豪雨災害の際、九州まで駆けつけてくれた八木さんに話を聞きました。

グリーンコープとのつながりは、次へ進む力となっています

2019年の台風19号では、1年をかけて栽培していた「うみねこ」のイチジクが収穫を目前に全滅してしま

んどくれるかを自分に問い、活動していく中で、たくさんの人との出会いで心豊かにしていただきました。震災直後、避難所で不自由な生活を送る子どもたちのために炊き出しや遊び場をつくっていたところ、物資の配布会を行っていたグリーンコープと出会いました。大人向けの物資がほしいと相談すると、遠い九州から物資が届けられました。高齢者が生きる意欲を持って人や社会につながっていきけるようにと始めた布草履作りでは、グリーンコープに販売の道筋を立てていただき、初めての企画で1300足もの注文をいただいた時の驚きと嬉しさは絶対に忘れられません。次へ進むための大きな力となりました。

震災から山あり谷ありの9年、大変な時に助けてくれる人がいて、これまでずっとつながってきたからこそ、私自身が前を向き進んでこれたのだと思います。私に何が残りましたかと聞かれたら、「人」です。「人が何よりの財産です」と答えます。

震災は誰にでもどこにも起こり得ます。その時、どう生きていくか、どうしたらいいのかは私たちの大きなテーマです。震災はつらい出来事でしたが、それまで出会はずもなかった人たちと出会い、支え合うことができ

喜びを感じています。

いま。「もう元に戻るのには無理だ」と思っていた時、グリーンコープが駆けつけてくれました。これからも一緒に復興を見守っていただけたらと思います。何かあれば私も駆けつけたいと思います。

被災から山あり谷ありの9年、大変な時に助けてくれる人がいて、これまでずっとつながってきたからこそ、私自身が前を向き進んでこれたのだと思います。私に何が残りましたかと聞かれたら、「人」です。「人が何よりの財産です」と答えます。

被災から山あり谷ありの9年、大変な時に助けてくれる人がいて、これまでずっとつながってきたからこそ、私自身が前を向き進んでこれたのだと思います。私に何が残りましたかと聞かれたら、「人」です。「人が何よりの財産です」と答えます。



サークル絆のおかあさんたちと田崎さん(中央)

人から人へ つながっていく「恩送り」

熊本県の益城町小池島田仮設住宅では、震災前よりも安心して暮らせる地域をつくらうと、住民同士でアイデアを出し合い取り組んできました。グリーンコープは、食材の提供などを通して支援しています。中心となって活動してきた自治会長や住民の有志で結成した東無田復興委員会、サークル絆のおかあさんたちに、活動のようすについて話を聞きました。

東無田復興委員会代表 田崎 一さん
集落を維持していくための行事や仕掛けをすることは、時には大変なように感じることもありますが、大きな災害が起きた時に助け合いが成り立つのは、日頃から集落でいろいろな行事を行って、お互いが知り合いの関係だったからこそだと思います。家族の仲が希薄になったり高齢の方の一人暮らしが増えたり、地域の人たちが家族のような役割をすることが、とても大事になってきます。

仮設住宅から災害公営住宅へ移ると、これまでの近所付き合いがなくなり、いろいろな話や相談ができなくなります。公営住宅に入居後は、新たに近所同士の関係を築かなければならないといった精神面の心配もあります。孤立しないための場所づくりが、今後必要です。

小池島田仮設自治会長 宮永 和典さん
仮設住宅から災害公営住宅へ移ると、これまでの近所付き合いがなくなり、いろいろな話や相談ができなくなります。公営住宅に入居後は、新たに近所同士の関係を築かなければならないといった精神面の心配もあります。孤立しないための場所づくりが、今後必要です。

2019年の九州北部大雨災害の時には、絆のメンバーも一緒に佐賀まで支援に行きました。今まで助けていただき恩をいただいたので、恩を返すのではなく次の誰かに「恩送り」をさせてもらおうと思えました。被災した自分たちだからこそ、被災された人の気持ち生まれてきたのかもしれない。グリーンコープとつながったからこそ、支援に行こうと思え立ち行動できたのだと思います。

2019年の九州北部大雨災害の時には、絆のメンバーも一緒に佐賀まで支援に行きました。今まで助けていただき恩をいただいたので、恩を返すのではなく次の誰かに「恩送り」をさせてもらおうと思えました。被災した自分たちだからこそ、被災された人の気持ち生まれてきたのかもしれない。グリーンコープとつながったからこそ、支援に行こうと思え立ち行動できたのだと思います。

仮設住宅での暮らしが長くなるにつれ気になってきたのが、高齢者の食事でした。東無田復興委員会の田崎さんから、「高齢者のための『大人食堂』を開きたいので、手伝ってもらえないだろうか」という相談があり、サークル絆のメンバーが毎回4〜5人ずつ交代で手伝うことになりました。利用した方から元気が出る、次も楽しみにしているという声を聞くと、がんばった甲斐があります。

サークル絆の皆さん
仮設住宅での暮らしが長くなるにつれ気になってきたのが、高齢者の食事でした。東無田復興委員会の田崎さんから、「高齢者のための『大人食堂』を開きたいので、手伝ってもらえないだろうか」という相談があり、サークル絆のメンバーが毎回4〜5人ずつ交代で手伝うことになりました。利用した方から元気が出る、次も楽しみにしているという声を聞くと、がんばった甲斐があります。

グリーンコープのHPで支援のようすを報告しています

<https://www.greencoop.or.jp/>

グリーンコープ震災支援 🔍 検索

支援のようすはコチラから



インスタグラムでも、長野県の産直りんご生産者への支援のようすを報告しています。ぜひフォローして応援ください！
<https://www.instagram.com/greencoop31/?hl=ja>